

全面解禁で本格シーズンへ 外房大原のヒラメ視界良好

10月1日、外房大原のヒラメ釣りが全面解禁を迎えた。大原港はこの日を待ちわびた釣り人たちが早朝からにぎわい、今回お世話になった松榮丸も15名の釣り人が乗り込んだ。ほどなくしてエサの生きイワシを積んだトラックが

横着けされ、船のイケスに移される。中井一也船長が舵を握る本日は4時半に出船。いよいよ全面解禁です。船長に声をかけると、「昨年の解禁は太東沖の水深40〜50メートルで模様がよく

だったので今年も狙うつもりでしたが、台風の影響でとてもやれる状況ではありません。今日は灘寄りの水深15〜20メートルの浅場へ行きます」とのこと。釣り場が限られてしまふのは少し残念だが、どんな釣れっぷりになるのか楽しみだ。



▲来年5月上旬までロングランで楽しめる

▼当日の釣り場は太東沖の水深15メートル前後



ことおよそ45分で太東沖のポイントに到着。15〜18センチほどのイワシが3〜4匹ずつ配られる。

横流しで広く探る

定刻の5時半になったところで開始のアナウンスがあり、エサのイワシが一齐に送り込まれる。水深は15メートル前後。魚探を見せていただくと海底はほぼフラットだが、周囲にはツブ根が点在しているとのこと。

ヒラメ釣りには船首を風上に立てながら船を流す「エンジン流し」と、船の側面に風を受けながら風と潮に任せて船を流していく「横流し」の2通りの狙い方があるが、ここ大原エリアでは横流し釣りがメインとなる。

横流しのメリットはポイントを広く探れること、そして流し変えごとに風が当たる舷が替わるので潮上や潮下、釣り座に関係なくチャンスが得られること。

逆にデメリットは船の流れが速いときなどは仕掛けがフケ上がりやすく、きちんとタナが取れないとアタリが遠くになってしまふ。

道糸が払い出す側ではある程度は道糸をのぼしても構わないが、道糸が船下に入り込む側の場合は道糸をのぼし過ぎると反対舷の人とオマツリしてしまふ。オマツリを避けるためにまな底ダチの取り直しが大切。

また、この釣りはエサ付けも大事なポイントだ。船長のおすすめの付け方は親バリは

知得! Tips and Tricks

アタリがきても即合わせはダメ

アタリがきてもエサを食い込んでいないことが多く、即合わせするとスッポ抜けてしまふ。そのためアタリがきたら食い込むまで待ち、強く引き込んだところで竿を立てて合わせる。

「最初にヒラメがイワシをくわえたときに竿先がモタッと押さえ込まれるような変化が出ます。この変化を感じたらゆっくり聞き上げていき、重みが増したら乗せるように大きく竿を立てて合わせましょう」と船長。

▲竿を立て、聞き上げるようにしてハリ掛かりさせる

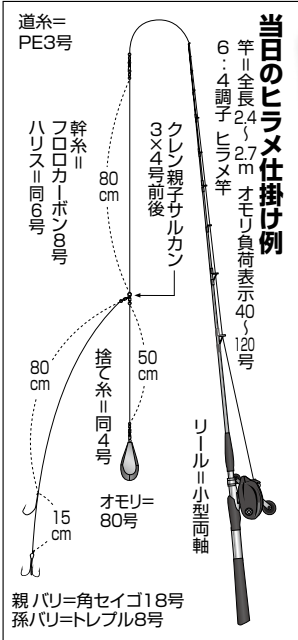
口中から上アゴの硬い部分に真つすく刺し、孫バリは背ビレの後ろに打つ。

そして何よりイワシを弱らせないことが大事。オケの水の中で手早くハリを掛け、投入時は親指でスプールを押さえてブレーキをかけたつ、ゆっくり海底まで沈めていく。

さて釣況のほうだが、船中最初のアタリは左舷の間の方。0.5キロのヒラメを釣り上げて出足はまずまず。続いて竿を立てたのは右トモの方、これは海面に近づくにつれ前後左右に暴れまくる引きで40センチ級のイナダが取り込まれた。流し変え後はヒラメが集ま

•Tackle Guide

第一松榮丸ではオモリ80号のノーマルが基本だが、潮流に合わせて調整できるようオモリは40〜80号まで各号を用意してある。



10時の時点で5枚のヒラメをキャッチした方が右ミヨシ2番、同3番と右トモ3番の3人。その後、右ミヨシ3番の榎島さんは1.5キロ級のヒラメを釣り上げて6枚目と気を吐く。

低めのタナと誘いが有効

解禁日だからたくさん釣れるだろうとは思ってはいいたが、小型中心ながらも魚影の濃さには驚くばかりだ。

「濁りがあるのでタナは低めにしました。オマツリに気を付けながら、オモリを底から50センチ上げてアタリを待って釣っています。今日はヒラメの活性が高いのか、6枚のうち4枚が1回目の強い引き込みでエサを食い込んでくれました」と榎島さん。確かに今日は潮が濁っているため低めのタナ取りが正解なのかもしれない。

ように2.1メートルのゲームロッドにしてみました。竿いっばい上げてからゆっくり落とし込むときにアタリがあります」と教えてくれました。

ほとんどの方がタナを取ったらアタリを待つスタイルが多い中、積極的に誘いを入れていたのが小林さん。見事、作戦がハマったようだ。

11時半の沖揚がりまで残り30分、当日はアタリも多かったため、イケスにたくさんいたエサがなくなってしまうって11時に早揚がり。

当日の釣果は0.4〜1.8キロのヒラメが一人0〜7枚(0は船酔い)、イナダ、ガンゾウビラメ、アオハタ、マハタが交じった。最後に解禁日の感想を船長

▼濁りがあり低めのタナ取りが奏功した



▼1.5キロ級を釣り上げた榎島さん



「昨年の全面解禁より数が釣れてたね。深場の根周りを狙うことができれば2〜3キロクラスも交じると思うから、海が穏やかになればいい釣果が期待できるんじゃないかな」とうれしいコメントで締めくくってくれた。



▶ゆっくり竿を立ててから落とし込みで誘う

●船宿information

外房大原港
第一松榮丸
☎0470-63-0593
(詳細は巻末の情報欄参照)



中井一也船長

- ▶料金=ヒラメ乗合一人1万2000円(エサ、氷付き)
- ▶備考=4時集合。フグ、ヒラメ&ハタへも出船